

# 新年を迎えて



## 賀正

「『持続可能な過疎地域のまちづくり』

に力を合わせて」

積丹町長 松井秀紀

明けましておめでとうございませう。

世界のスポーツの祭典「東京オリンピック」が開催される記念すべき令和2年、2020年の新しい年を、町民の皆さんとともに元気で迎えられることを大変うれしく思います。

町民の皆さんには、当町の「健全財政の維持」、「行政サービス水準の維持」、「地域の活性化」の3つの課題の克服と両立という難題への挑戦の私の願いに、町の厳しい情勢にもめげず、これまでも増して町議会議員の皆さんとともに真剣に耳を傾け、ご協力をいただいております。

そして、町のどこかでみんなで力を合わせ頑張っている多くの町民の皆さんの声や姿に身近に接し、ある時は私と職員への叱咤激励をいただき、本当に勇気づけられました。

そうした町民の皆さんの深いご理解と温かいご支援に心から感謝とお礼を申し上げます。

昨年は、7月の大雨の中でも、河幅拡張の効果を実感させられた美国川改修工事や、高速道路の延伸による新しい人や車の流れ、積丹応援団を核とした産学官金連携による国内初の「ジンのふるさと」誕生、そして、「今再び歴史ロマンをかき立てる女人禁制の解除から164年の歳月を経た神威岬」へ『時を訪ねて（北海道新聞）』など、積丹半島先端の地が新たな脚光を浴びる出来事がありました。

新しく迎えた令和2年、政府は、我が国全体が人口減少と少子高齢化に喘ぐ社会情勢の下で、どのような地域であつ

ても、どの時代に生まれても、住民に安心と安全、幸せをもたらす、活力溢れる持続可能な地域社会」を目指し、国と地方が一体となり、全世代型社会保障制度構築など新たな施策への理解と協力を求めています。

一方で、地方交付税の大幅な縮減や良質な地方債・補助金の制約、地方負担と消費増税による行政経費の増大など、当町の身近な地域課題に充てる財源が年々抑制の度合が高まり、小規模自治体にとつて苦境を乗り越える厳しさが増えています。

私たちは、町の「3つの課題の克服と両立」を基本に、防災や温泉特別会計の改善、地方創生、役場庁舎の老朽化など数多くの懸案課題の一つひとつの解決への努力を通して、自治力・財政力・行政力を養い、過疎地域の公益的機能を維持し続けるため、町をあげて取り組んでいかなければなりません。

また、国・道や大学、民間機関や道内外の多くの積丹応援団の方々の知識や技術をお借りし、その信頼関係を大切にしながら、そして何よりも町民の皆さんの融和と郷土愛の精神を大切に、私たちの「故郷・積丹のまちづくり」に弛まぬ努力を続けてまいります。

『新たな令和2年』の希望に輝く新春を迎えて、町民の皆さんのご多幸とご健勝を心から祈念し、年頭のご挨拶といたします。